

新たな食料・農業・農村基本計画の骨子（案）に関する意見提出について

【我が国の食料供給】

意見 1

水田政策の見直しが示されましたが、食料の安定供給、水田における多面的機能の維持、家畜飼料含め国内自給率を高め、水田の畑地化の促進ではなく水田における稲作は維持・向上させていくべきです。また、少子高齢化 担い手が危ぶまれる中で、稲作農家は新たな設備投資ができる経営状態ではなく、現有する機械・設備をフルに活用していくことで、生産性の向上と経営改善に取り組むべきです。畑作は、まずは相当数ある耕作放棄された畑を再生していくことが先と考えます。

意見 2

「畜産」においては、牛肉は輸出を見据えた黒毛和種のみではなく、放牧、粗飼料や国内食料副産物等の未利用資源を肉に変えることができる肉専用種（褐毛和種、日本短角、外国種のアンガス等）生産に取り組んでいる生産者への支援強化をお願いします。食品ロスの低減に加え、放牧することによる温室効果ガス削減へとつながります。また、牛・豚・鶏ともに飼料用米の利用は有効であることが確認されています。一層の国産飼料用米の利用促進できるよう支援強化をお願いします。

意見 3

全ての農薬について最新の科学的知見に基づく再評価を円活に実施することについて期待します。農薬が原因で生物多様性の破壊や環境汚染の原因にならぬよう海外での研究結果も参考にしながら行っていただきたいです。

意見 4

国内の食料供給（1）①2018年からの減反政策を廃止していますが、飼料用米や麦などへの転作補助金の拡充がされており、実質的な減反政策の継続と思われる。農家が安心してお米を作れるよう、稲作への補助拡充の政策作りをお願いします。様々な取り組みが書かれていますが、それ以前の政策における矛盾を修正しない限り、米農家と水田の減少は止められないと思います。

意見 5

食料自給力の確保では、様々な提案を行っていますが、それを実現するためにも、耕作面積に応じて所得が確保されるよう農家への金銭的支援を十分に行ってください。食料自給率の向上は最大の安全保障となります。それを支える第一次産業への補助が不足していると感じています。

意見 6

米の消費について、国内でも大手食品メーカーや米卸業者のパックご飯製造工場が次々と新設され、補助金の決定のニュースもありました。パックご飯は国内需要も高まっていますが、工場新設は中国や海外に向けての輸出を強化するためでもあります。輸出も重要ですが、まずは国内で安定的な供給が途絶えぬようにしてください。有機米についても海外のニーズではなく国内での消費を最重要とし、学校給食をはじめ日本人がしっかりと米食の文化をつないでいける仕組みと環境の整備を望みます。

意見 7

農業現場の高齢化、後継者不足が深刻化する中、スマート農業技術や昨今の気候変動に耐えうる品種の導入、農地の集約化等様々な対策があげられていますが、既に取り組んでいることもあり、農業現場の切迫した状況の解決となるのか疑問を感じます。代々続いた米農家が今の状況では子どもに継がせられない、継がせたくない、という実情がある中、技術や整備のみではなく、農業従事者の税金を減らす、学校給食に使う農産物は国が生産費を十分に保証できる価格で買い取り、市町村へは学校給食に使える価格で販売する、など国をあげて農業従事者の所得を上げ、将来に渡り就農者が増える対策を講じてください。

【環境との調和のとれた食料システムの確立・多面的機能の発揮】

意見 8

オーガニックビレッジの拡大等による有機農業の推進とともに、千葉県いすみ市で取り組まれたように学校給食に有機米を利活用したことで、市内の子どもを中心とした市民に広く支持されたとともにいすみ市の有機農産物が国内に知れ渡った事例を好例とし、国が費用負担し国内すべての小中学校の学校給食のごはんを有機米へと転換させてください。

意見 9

地域計画と連携し、有機農業の推進拠点となる地域（オーガニックビレッジ）の拡大に期待します。人口減少や高齢化による食品アクセスの確保と併せて、環境への配慮を行い、安全・安心で高品質な農産物等の生産に携わる方々が適切に評価されることも必要ではないでしょうか。新規就農者は有機農業を目指す方も多く、そのような方々の受け入れ態勢や、地域の慣行農家が有機農業へ転換する際の支援や指導などの体制づくりも強化していただきたいと思います。

意見 10

有機農業の推進において、有機農業への移行期における支援や、以前の栽培方法に対して農薬や化学肥料がどれだけ削減されたか、という所からの支援制度であり、既存の有機農産物生産者や環境保全型農業に取り組む生産者が対象外にされているのではという懸念があります。2050年までに有機面積25%を目指すうえでも既に取り組みをすすめている生産者の支援制度を整備していくことが重要だと考えます。

【農村の振興】

意見 11

多様な人材が農村に関わる機会の創出のため、地方農村でのジェンダーギャップの低減、多様な人を受け入れるインクルーシブジェンダーをすすめてください。若い方や女性が都市への流出をとめることも、農村の振興になると考えています。考え方が旧来通りのままだと、人口流失は止められないのではないのでしょうか。

意見 12

中間産地における家族経営農家では、高齢化や後継者不足により経営体ごとの生産量も年々減少してきていると聞きます。また、出荷単位が少ないことから、地域の小売店でも受け入れてくれないなど、課題が多くあると感じます。小さな畑や田んぼが地域に点在していることは日本の食料安全保障に直接つながることだと思います。中間産地の農業が将来的に存続していくためにも、販路の整備や拡大にも重点をおいてください。

【自然災害への対応】

意見 13

災害発生時における過度な買いだめの防止を呼びかけるとありますが、呼びかけだけでは効果が無いように思えます。消費者が安心できるようマスコミなどと情報共有を適切に行い、正しい情報を発信することが大切だと思います。

【国民一人一人の食料安全保障・持続的な食料システム】

意見 14

平時における食品アクセスの確保に対し、不測時における食品アクセスの確保が非常に弱いと感じました。問題は不測の事態が起こった際の食料安全保障であり、輸出以上に強化しなければならないことだと考えます。稲作をはじめとした国内の生産を強化し有事の際は輸出を止めて国内で自給ができる形へ舵を切るべきではないのでしょうか。不測時でも輸入米に依存することのない日本であることを切に望みます。

【全般】

意見 15

全体的に大規模農業向けを前提とした計画に思われます。大切にしなければならないのは小さい家族経営の農業者だと思います。小規模農業者に寄り添った計画をお願いします。

意見 16

輸入に頼ることをやめても、輸出に頼ってはいやはり不安定な状況に変わりはないのではないかと。まず国内の需要を高める施策が重要。国産や有機の農作物の価格を国が負担して下げ、消費者や業者の購買意欲を高める、学校給食への利用などを検討してほしい。農地の集約化や大規模化・効率化により、農作物の単一化が進んで多様性がなくなり、伝統的な文化までが失われてしまうのではないかと。まず担い手を育てること、安心して後継ぎを任せられる農業システムを早急に構築してほしい。

以上